

花と緑の大阪吟行会（令和7年4月13日…富田林すばるホール）

特選・入選句

切建 昇 選

特選

あてまげを一直線につばくらめ
桜散る歌碑朗々と老夫婦

村上 直子
中野 智恵

入選

鳶若葉身代はりどぢやう放つ寺
袈裟ならず西行塚の花衣
花冷や錆びつくままの駒つなぎ
石川の流れ豊かよ雉のこゑ
花あればほのかにぬくき西行墳
西行墳百万回の花曇
花散らしの雨にけぶれる駅に待つ
菜の花や道問ふ人の国訛り
西行堂の青きシートに春惜しむ
雨あがり樹下に色づく花大根
ぬれ縁にひとひら落下ありて静
登り来て総身に浴ぶる花吹雪
しのび返し光れる庭のすみれ草
反戦の歌碑に揺れゐる若楓
あてまげてふ辻に迷ふや山笑ふ
西行の墳墓に花を惜しみけり
鳥雲に使はぬままの煙出し
木の根道石の道来て花惜しむ

大島 幸男
川上なみ子
田島 かよ
政元 京治
川上 純一
植松 佰代
山内 茉莉
大橋 節子
富安トシ子
寿栄松富美
加藤 生子
河原 まぎ
内田 陽子
伊瀬知正子
清水寿恵子
酒井多加子
平 万紀子
福西 泰子

桑島 啓司 選

特選

子子の棲処となりて深轍
桜しべ悲喜交交と降りにけり

北端野風彦
藤堂くにを

入選

鳶若葉身代はりどぢやう放つ寺
濡れ縁に花びら遊ぶ西行堂
行者滝魂あるごとく跳ねにけり
雨上がりたんぽぽの絮飛びたさう
山寺はさくらをさめの雨となり

大島 幸男
長野 順子
奥野とほる
坂本 剛子
中間 一司

菜の花や道問ふ人の国訛り
花散るや時空越えたる西行碑
鳥声の響く寺院や松の芯
乗り替へて乗り継ぎて会ふ山桜
玉砂利の音も神さぶ残花かな
西行を恋ふか花びら谷を越え
西行の墓へ飛花浴び落花踏み
西行の墳墓に花を惜しみけり
声を殺して鶯がゐるといふ
花冷えや露子生家の広き土間
石川の風に吹かれて植木市
行く春や古き商家に蔵いくつ
当て曲げの町を飛び交ふ燕かな

大橋 節子
寺前 時子
藤田 壽穂
西本ひとみ
春名あけみ
田中 春生
富田 美子
酒井多加子
師岡 洋子
村上 智美
金井憲一郎
安里 道子
堀 真一路

柴田多鶴子 選

特選

西行を恋ふか花びら谷を越え
西行の墓へ飛花浴び落花踏み
入選
花片を追ひてまた散る桜かな
庵跡ひそとありけり桜散る
王陵の谷の上空花吹雪
花過ぎの歌碑から歌碑へまた句碑へ
揚雲雀円位似雲を尉さめむ
乗り替へて乗り継ぎて会ふ山桜
春深しすこやかにいま老いざかり
桜花いづこより散る西行墓
玉砂利の音も神さぶ残花かな
あてまげてふ辻に迷ふや山笑ふ
鳥雲に西行似雲終焉地
西行の終焉の寺花浄土
声を殺して鶯がゐるといふ
燕来る雨の匂ひの寺内町
食べごろのぜんまいばかり西行庵
ふたかみの緑まぢかき寺内町
大修理待たるる寺の松の芯
花冷えや戦さびしと露子歌碑

田中 春生
富田 美子
森田 教子
香山 直子
植木 啓次
岩井 英雅
森 千代子
西本ひとみ
志々見久美
和田 公子
春名あけみ
清水寿恵子
阿部由希子
高塚 康文
師岡 洋子
永野 壽一
倉橋みどり
新谷 壯夫
伊藤よし女
駒木 敏

平田 冬か 選

特選

春愁やあてまげ辻に迷ひもす

花散るや高臥の趾のかく狭く

入選

西行墳踏むに惜しきよ花のちり

花冷や錆びつくままの駒つなぎ

花片を追ひてまた散る桜かな

大桜吐息のごとく花の舞ふ

王陵の谷の上空花吹雪

青空の一点と消ゆ雲雀かな

熊ん蜂胴体だけが飛ぶごとし

行合の雨に河内の春惜しむ

あてまげの辻に迷ふや山笑ふ

囀の止まぬ西行墳の上

木々芽吹く空を余さず庵址

西行の墳墓に花を惜しみけり

花行脚つひは西行終焉地

山道は長くて険しきらん草

西行の墳墓へ落花とどめなし

あてまげの道まつすぐに燕くる

文化財多き町並初燕

石白を踏み石となし花菫

小林 栄子

山本ヒロ子

川上 純一

田島 かよ

森田 教子

村手 圭子

植木 啓次

敷島八枝子

堀 康恵

吉村 征子

清水寿恵子

播広 義春

吉川美登里

酒井多加子

山内 蘭彦

富田 美子

池田 雪彦

平 万紀子

能勢 ゆり

鴨川加奈子

堀 瞳子 選

特選

乗り替へて乗り継ぎて会ふ山桜

ちるさくら庵跡より須磨明石

入選

春惜しむ螺旋階段ある町屋

花冷や錆びつくままの駒つなぎ

鋤込みし草起上る春田かな

格子窓露子の見たる落花かな

揚雲雀円位、似雲を慰めむ

隅屋桜笹部桜も一山に

子らの習字貼り出す格子蔦若葉

花散るや高臥の趾のかく狭し

西本ひとみ

田中 春生

政元 京治

田島 かよ

大島 幸男

奥野とほる

森 千代子

森山 久代

速水 英子

山本ヒロ子

散る桜どれへともなく手をのばす
いかに聴く終の庵に花の雨
つばめ来る白亜の巨塔見ゆる街
春風が蔵の小窓に届きたり
声を殺して鶯がゑるといふ
野の花の添ふる歌碑へと春の雨
おのころ島西行山の桜より
燕来る丸瓦おく煙出し
花曇古民家カフェのテラス席
「あて曲げ」の道に迷ひぬ花楓

師岡 洋子
木村 夢月
中尾 謙三
小林 晴子
師岡 洋子
本原 直美
瓜阪 孝依
森下まゆみ
阪井 京子
室谷 早霞

森賀 まり 選

特選

白壁の蔵越えて咲く榎植かな
花冷えや戦さびしと露子歌碑

伊藤よし女
駒木 敏

入選

鳶若葉身代はりどぢやう放つ寺
花ゑんど吾子の口笛鳴りはしむ
花冷や錆つくままの駒つなぎ
初めての雨に駆けだす仔馬かな
古びたる制服店や燕来る
熊ん蜂胴体だけが飛ぶごとし
鳥雲に旅の詩人は塚となり
老鶯や防火用水満たしあり
浅沓の縁の汚れや木の芽雨
西行の寺なぐさめよ春の雨
玉ねぎの緑のびたる屋敷庭
存分に踏む大寺の落椿
春暁や馬ほど大き犬の夢
声を殺して鶯がゑるといふ
酒蔵の旧家の井戸に春惜しむ
異国語の応へに窮し花の雨
虫籠窓すうすう抜くる春の風
鬼瓦屋根を降ろされ花曇

大島 幸男
大西きん一
田島 かよ
大西きん一
安田 徳子
堀 康恵
堀 康恵
米野てるみ
越智 益美
上条 光晴
小林 晴子
大山 文子
山岸 充季
師岡 洋子
西原 薫
西本 睦子
森下まゆみ
鴨川加奈子